

平成 29 年度前後期 授業アンケート分析報告

学習・教育開発センター

FD の大中小

FD (Faculty Development) には、規模に関して、大きな FD・中型の FD・小さな FD の 3 つの区分があります。

表 1 FD の規模区分

区分	対象規模	研修主宰	内容
大	大学全体	主に LED センター	全教員共通で活かせるもの
中	学部・学科	学部・学科	学部・学科の専門科目で活かせるもの 学部・学科の運営に必要なもの
小	教員個人	教員個人 LED センター	教員個人が自身に活かせるもの

学習・教育開発センター (LED センター) では、全学教員対象に大規模に行われるものと、頻度多く各回任意参加で行っている小規模なものの 2 種類の FD 研修会を行っています。中型 FD に関しては、学部・学科の教育・運営方針に基づいて行われる FD であり、特定内容の依頼がある場合には、LED センター主宰で行うこともあります。基本的には学部・学科単位で行う FD 研修です。

授業アンケート分析結果の活用方針

本授業アンケートから行う FD も、上述の FD の規模に応じて、その活用の仕方が違ってきます。本報告を含め、LED センターでは以下のように FD に活用する (活用して貰う) ことにしました。

大きな FD

LED センターは、全アンケート回答を分析できる立場であることから、アンケート回答全体から得られる、特に DP に関連する分析結果に応じて、学生からの良い反応のある DP 項目に関してはそれをのばすための FD 研修会、学生からの反応が乏しい DP 項目に関しては、それを補う・底上げするための FD 研修会を実施しています。

中型の FD

従来では、この部分に関して、学科からの要求で少し立ち入った分析を行うこともありましたが、上述した大きな FD で提供する統計データをもって、学部・学科ごとに改善検討を行ってもらっていました。

授業アンケート分析結果からは、他の科目に比べ極端に違う結果になっている科目を見つけることもあります。良い方向にも悪い方向にも、様々な項目に存在します。学生の回答の反応が悪い場合には、様々なミスマッチが原因であることが多く、その改善方法は多岐にわたる上に、カリキュラム的な問題であることも少なくありません。例えば、教員が伝えたい内容と履修する学生が得たい・得られると思っている内容にずれがある場合には、シラバスの書き方を改善する、初回講義でシラバスの内容をよく伝達する、などの対応で解決することができる場合があります。このような科目の改善は、カリキュラムにも関連するため、各学部長への報告とし、学部・学科の FD として改善をしていってもらおうと考えています。

小さい FD

現在、授業アンケートは、学習管理システム（LMS）である「manaba」で行っており、その各科目の結果は、manaba 上で科目の担当教員が自身で見ることができます。そのため、教員個人の FD としては、その授業アンケート結果から自身の担当科目の改善につなげてもらうことが、本授業アンケートの活用となります。

教員個人の投入できる総労力を考えると、全ての担当科目の全ての点で改善を行うことは、現実的には困難であることが容易に想像されます。そのため、何かしらの指針により優先度を設定して改善を行っていくこととなります。その際、参考になる数値として、担当科目の所属する科目分類の平均値（度数分布）が挙げられます。そこで、各教員の参考材料として、LED センターが科目分類毎の度数分布を分析・算出し提供します。

授業アンケート分析結果

平成 29 年度に行われた前期・後期の科目を対象に、延べ 5 万の回答の分析を行いました。アンケート項目の内容に関しては、文末に参考資料として記してあります。

授業アンケートから見る DP の達成度（大きな FD）

授業アンケートの C 群（問 11～15）は、学生が自身で思う DP の達成度を測定しています。各科目には、学部・学科で掲げている DPのうち、どの DP の習得に対応するかシラバスに示すこととなっていますが、ここで学生が回答する達成 DP は、「実際に得られた DP」ではなく、「学生が得られたと思う DP」であることに注意する必要があります。実際に得られた DP は、学期末試験など、客観的な試験で測定すべきものとなります。

本分析では、DP の達成度を左右する要因の探索として、「目標達成と努力」、「教授の工夫」、「授業外学習時間」の 3 項目から、授業アンケートの 5 つの各 DP の達成を説明するモデルを組み、各 DP への影響力を分析しました。その結果は、いわゆる当たり前の結果も含め、以下に示す様になりました（表 2）。

表 2 DP 達成度への影響

	把握する力	考え抜く力	挑戦する力	協調する力	行動する力
目標達成と努力	中	中	中	中	中
教授の工夫	強	中	中	中	中
授業外学習時間	無	無	無	無	無

※「中」は中程度の正の関連、「強」は強い関連、「無」は関連が極めて薄いことを表す。

この結果より、「目標達成と努力」、「教授の工夫」は、いずれの DP に対しても「一方が増えれば他方も増える」という極めて当然の正の影響を示しましたが、「授業外学習時間」は、いずれの DP に対しても影響力を示さない結果となりました。これは、授業外学習時間が長い場合に、「学習内容に困難を覚え時間が延びる」場合と、「理解しているが学習が好きであるがゆえに時間が延びる」場合が混在しているため、総合的な影響として関連が見えなくなっていると考えられます。また、学生側の努力と教育者側の工夫は、いずれの DP に対しても同程度の影響力を示しましたが、特に教育者側の工夫は、学生の「把握する力」へ、きちんと強く影響することが判明しました。履修学生の理解を促すとともに、取り組み外のある課題や授業に巻き込む工夫を通じて学生の努力を引き出すことが重要であることとなります。これを推進するための FD 研修は、既に LED センターを中心に実施しており、今後も継続していく予定です。

教員個人の比較参考のための科目分類ごとの度数分布

表 16 に示した区分を用いて、平成 29 年度前後期の授業アンケートから、自由記述項目を除く全項目の度数分布を算出しました（表 3 から表 12）。これは、旧授業アンケート分析で行っていたものと同様に、学科間の比較をするためではなく、教員個人が自身の担当科目の授業アンケート結果と比較し、改善のための労力を何処に優先的に振り分けるかの参考にしてもらうためのものです。そのため、科目の所属分類毎の表になっています。

表 3 平成 29 年度授業アンケート結果（基礎） [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	2	43	3	3	2	2	2	2	3	3	3
2	5	7	33	7	8	5	5	5	6	6	6	6
3	21	26	13	28	33	19	26	25	27	28	26	27
4	38	40	5	39	37	40	38	42	41	37	37	37
5	33	25	6	23	19	33	28	25	25	27	28	27

表 4 平成 29 年度授業アンケート結果（語学） [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	3	12	1	3	1	2	3	2	2	1	3
2	4	3	29	6	4	5	5	4	5	6	5	4
3	8	16	22	14	22	12	13	19	22	20	14	22
4	37	36	16	40	41	43	37	39	38	34	37	34
5	49	42	21	38	29	38	44	36	33	38	43	37

表 5 平成 29 年度授業アンケート結果（教職） [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	2	27	3	1	2	5	3	2	3	3	2
2	3	5	35	10	3	7	10	5	8	6	8	8
3	16	27	22	23	38	17	21	24	31	26	27	25
4	35	36	7	35	42	40	29	43	34	35	33	35
5	44	30	10	28	16	34	35	25	25	31	29	30

表 6 平成 29 年度授業アンケート結果（専門・法） [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	2	27	3	1	2	5	3	2	3	3	2
2	3	5	35	10	3	7	10	5	8	6	8	8
3	16	27	22	23	38	17	21	24	31	26	27	25
4	35	36	7	35	42	40	29	43	34	35	33	35
5	44	30	10	28	16	34	35	25	25	31	29	30

表 7 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・法) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	3	2	36	4	4	2	3	2	2	2	3	2
2	8	8	41	9	9	6	6	8	8	8	9	7
3	22	27	15	28	37	21	27	25	27	27	27	23
4	40	42	4	40	35	41	37	43	41	38	37	41
5	27	20	5	19	15	31	27	21	21	24	23	27

表 8 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・政行) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	1	33	2	3	1	1	1	1	1	2	1
2	5	6	39	7	8	6	4	5	5	4	5	4
3	16	25	15	25	33	15	24	20	20	24	25	24
4	42	41	7	40	40	40	37	45	46	38	39	40
5	35	27	6	26	16	38	34	29	28	32	29	32

表 9 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・経情) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	3	2	44	3	2	2	2	2	1	3	3	2
2	8	7	36	8	8	5	6	5	5	8	9	6
3	17	27	13	28	35	21	25	28	26	28	33	26
4	40	38	3	41	39	41	39	44	42	39	33	40
5	32	25	4	19	16	31	27	21	25	22	22	26

表 10 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・現ビ) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	2	2	37	2	3	4	2	2	2	3	3	3
2	6	7	36	8	8	5	6	5	5	7	7	6
3	21	25	16	28	34	18	25	24	27	27	26	26
4	38	42	4	38	38	39	38	45	42	38	36	38
5	33	24	6	24	17	34	28	23	24	25	27	27

表 11 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・管栄) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	0	1	20	0	2	2	1	0	0	1	1	1
2	3	4	40	4	6	4	2	2	2	4	4	3
3	7	12	25	14	30	14	16	14	19	20	19	16
4	39	48	8	47	40	40	45	51	49	43	40	45
5	50	35	7	35	22	41	37	32	29	33	36	35

表 12 平成 29 年度授業アンケート結果 (専門・ス科) [%]

選択肢	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-8	B-9	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
1	1	1	44	1	1	1	2	2	1	1	1	1
2	4	6	39	5	8	4	5	2	4	4	2	2
3	17	27	11	32	42	22	22	24	28	28	30	26
4	41	40	2	39	34	43	40	45	42	38	38	38
5	36	26	4	22	14	31	31	26	26	29	29	33

参考資料

表 13 授業アンケートの設問群

設問群	設問内容	評価対象
A	授業で学んだ自分自身を振り返って回答してください	学生自身
B	授業を振り返って回答してください	教員・授業内容
C	授業を通じてどの程度身についたか振り返って回答してください	DP

表 14 授業アンケートの設問項目

設問群	設問番号	設問内容
A	1	授業内外の課題に真剣に取り組んだ
	2	疑問に思うこと、習得が不十分な点を解消する努力をした
	3	この授業の予復習や課題に取り組む為に、週あたりどれくらい学習しましたか
	4	この授業の目標を達成するために努力をした
	5	目標を達成することができた
B	8	この授業は内容の理解が深まるよう工夫されていた
	9	この授業の到達目標は明確に示された
C	11	知識をもとにいろいろな視点から物事を捉える力
	12	考えを整理して分析的・論理的に考える力
	13	自分や社会をより豊かにしようという気持ち
	14	異なる価値観を尊重し、周囲と協力する力
	15	学んだことを用いて、社会の問題解決に生かす力

表 15 授業アンケートの回答選択肢

設問	回答選択肢
A-3	1. ほとんど学習していない
	2. 1 時間未満
	3. 2 時間未満
	4. 3 時間未満
	5. 3 時間以上
それ以外	1. 当てはまらない
	2. やや当てはまらない
	3. どちらとも言えない
	4. やや当てはまる
	5. 当てはまる

表 16 分析に用いた科目の分類

分類	分析分類
<共生>基幹・基礎	
<共生>発展・主題【人間・文化】	
<共生>発展・主題【国際・社会】	
<共生>発展・主題【環境・科学】	基礎
<共生>発展・主題【教育・学習】	
<健康とスポーツ>基幹・基礎	
<健康とスポーツ>発展・主題	
<国際コミュニケーション>基幹・基礎	
<国際コミュニケーション>発展・主題	語学
専門科目	専門
教職課程	教職